

Structure Kansai No 9 '84.II

建築主から見た構造設計雑感

阪急電鉄㈱企画室

西村良平

建築構造設計の専門の方々に、建築主側からの要望、意見をということであるが、私も入社間もない頃、鉄筋コンクリート構造計算規準と首っ引きで計算機を廻したことがある。仮定断面で許容値内に納ると、建物全体を考え検討してみる余裕もなく、構造設計が出来た様な気になったものだが、実は構造を計画し設計したものではなかったのである。

或る建物が建築される過程を考えると、計画の初期の段階では、主として意匠を専門とする設計者、所謂意匠家が担当してその計画が進められ、プランが凡そ固まった後、構造家が参画することがまだ多いようである。構造家は意匠家から無理な構造を強いられることはないとどうか。極端な場合は、入社の頃の私の如き計算家位に考えられることはないとどうか。建築計画の早い段階から構造設計者も参画して、一般計画と同時進行で構造計画が行なわれなければ、本当に優れた建築は生まれる筈はないのである。

構造計画ということでお付くことは、先ず最近の採算性の極めて厳しい建築において、構造計画者はその計画如何が何程全体コストに影響を与えるか、適格にアドバイスを与えることが不可欠である。構造計画に無理があると不経済だ、といった定性的なことは從来も述べられて來たが、定量的な経済性の把握となると、完全な比較設計には時間と労力がかかり過ぎることもあって、まだまだ不充分ではないだろうか。コンピュータのめまぐるしいばかりの進歩の時代なのだから、更に実際的で有効な手法が開発される日も近いものと大いに期待している。

建物の機能面での耐用と構造耐用についてであるが、時代テンポの極めて速い今日では、最低5年に一度は内装の大改装を行ない、そのチャンスに大売出しとか何等かのイベントでも行なわないと陳

腐化してしまい、とても時代の時流に対応は出来ないし、その設備も10年も経つと耐用限度が来てしまう。これに引きかえ構造体は、私の経験からも、昭和初期の建物が健全度テストでも安全で、まだまだ充分使用に耐えるものであることがわかっている。ボーリング場のレーンの設計荷重が小さくて転用出来ないで困ったという話もあるし、構造計画に当たっては将来の利用状況のある程度の変更にも耐えるものとして計画されるべきと考えている。

電鉄会社の建築部門で、動物園の猿の檻からデパート、ホテル、ターミナル駅まで、非常に多種用途の建築に関与して、構造安全度について思うことだが、ターミナル駅のような建物は、もし大震で構造上致命的な損傷が生じ交通がストップする様な事態になると、社会的不安や混乱が助長されるから、大地震に遇っても尚最低の機能は確保されるよう構造設計がなされるべきことは云うまでもない。

以上全くまとまりもなく、独断的な私見のみで誠に恥ずかしい限りであるが、雑感ということでお許し願いたい。

塩野義製薬㈱製造部工務課

菊池 至

私達は建物を計画する場合、建設予定地の空地スペースを考え、建物用途に応じて機器・設備の概略大きさを仮設設定し、近い将来の変更・改造を考慮しながらレイアウトをし、建物の輪郭を作っています。レイアウトの時、常に構造を考慮しながら進めていくわけですが、一番先に考えるのが柱の位置です。レイアウトする時一番邪魔になるのが柱です。柱がなく又柱を考慮することなく自由に設計出来たらレイアウトもしやすいのと思う事が一番多くあります。

建物を新しく建てる場合、建物の使用年限を設定して計画することができます。例えば5年間使用するので5年間だけも

てば良い。それで建物として何十年もつぶれない耐久力のある建物である必要がないので安価に作るようを考えるわけであります。この場合は建物のリースも比較検討するのですが、リース製品では役立たない場合が多い為、外装・内装等使用材料の耐久性の低いものを使用するよう考えていくわけです。軸体としては解体するのに簡単な構造・工法・材料、あるいは解体材の再利用が出来るように、または廃材として価値のあるものを使用するように考えていくようにしています。軸体ではありませんが簡易間仕切等が良い例あります。

建物は当初の建物用途に適した構造・機器・設備もってレイアウトされ、建てられているわけですが、数年もせずに用途上変更の必要が出て来ます。製品製造の場合ライフサイクルも短かく、近年増えこの傾向がひどくなってくるようです。専用工場・専用用途建物として建てられていても、数年もたてば用途が変わって来て、建物の改造の必要性が出て来るわけです。改造レイアウトの時、常に考慮しながら進めて行くのが構造上の事で、耐荷重・耐力壁・柱・梁の変更・改造の問題が出て来るわけです。これらの制限・制約のため最適なレイアウトでなく、次案の計画で進まざるを得なくなります。私達は建物が建てられた時から建物の維持管理をして行くわけですが、建物の使用年限の推定により予算を考えながら進めます。つまり残り使用年限がわずかの場合は、構造上問題がある部分のみの保守をしますが、意匠的なもの等には費用を掛けません。しかし重要な建物には新築された状態を保つように心掛けております。今まで述べたことを要約しますと、柱のない建物が必要となり、使用年限に応じた経済的な建物や将来の改造にフレキシブルに応じられる構造の建物および維持管理が容易な建物が必要になって来ると思います。

株神戸製鋼所 施設部

高井 了

装置産業の営繕部門という立場で仕事を行なう者にとって、建築物とは、工場や倉庫の様に骨組に粗末な单衣をまとわせただけの物、果ては、装置の上屋や機械の架台の様に单衣さえはぎ取られ骨組だけとなつた物をさす場合が過半を占めています。その様な建築物が相手ですから、興味の対象が構造体に注がれてくるのは当然の成行きです。構造設計への思い入れも、並々ならぬものとなるわけですが、その思い入れとは、ほとんどがコスト低減という、いさか不粹で生ぐさい事柄に対する期待なのです。

ところで、構造設計におけるコスト低減策というと、通常は、手間と時間をかけて（最近では電算機を使用するためにさほど時間はかかるない様ですが）「最少物量設計」が行なわれるというのが、どうも、オーソドックスな手法の様です。たしかに、その様な手法により設計された建築物の建築コストは、低く押さえることが可能ですが。

ところが建築物と云う物は、他の多くの者と同様に、時と共に移ろうために、時期がくれば必ず手入れが必要となってくるのは、自明の理です。

「最少物量設計」の徹底した建物では移ろいのスピードが思いの外早く、そのため、思いの外早い時期にしかも多額の手入れ費用が必要となり、後日、建築主をあわてさせるという事はよくある出来事です。特に仕上のない鉄筋コンクリート造の建物、あるいは天井走行クレーンがひん繁に走り回る建物に、この傾向は多い様です。また、これとは別に、装置やクレーンの変更、模様替など荷重条件の変化に対して、大がかりな補強を要し、その費用が当初の建築費に匹敵するほどとなるなどの例もよくある事です。

さてここで、建築主の多くは建設当初

の時点では、投資効果を上げるのに血眼で、「同業他社に遅れをとらないうちにできうる限り安く建設を」といらだっており、もはやそんな先のことまで吟味検討を行う余裕すらないというのが、現状なのです。

どうか、日々冷静なる判断を持って構造設計に取組んでおられる構造家の皆様、この様ないらだった建築主に対して、メンテナンスの条件、将来の荷重条件変更が生じたときの対応条件、建物の寿命、延命に関する条件などについて、話題と適切なる助言を与えることによって、ランニングコストにも眼を向けさせて、真のコスト低減が計れます様に、お導びき下さい。

天理教 営繕部

奥村音造

天理教における建築は、「心のふしん」と表現されております。天理教の建築は、予算あってのふしんではありません。信者の心がいかに集まるか、いかに真剣な信仰の力が結集されるかにかかっております。

天理教では、建築行為が宗教行為であり、宗教活動が盛んになれば、更に大きな建築にその力を表わし、たえず建築と一体となっています。天理教の建築で代表されるものは、八町四方、六十八棟の「やかた」であります。このおやさとやかたは、「神のやかたである」、「日本建築様式の建物である」、「恒久的建物である」、「宗教都市天理市都市計画の中核をなす」を設計思想としております。このような考えより、おやさとやかたは、当初より神道建築にみられるような桧皮葺屋根ではなく、耐久性、経済性、メンテナンスより、本瓦葺屋根の木造建築でした。しかし後に、信者がふえ、多くの人が宿泊するようになり、また建物の老朽化、都市災害などの問題から燃えないな

がもちする建物ということで戦後よりコンクリート造と致しました。

軀体の基本思想は、耐久性、特に末代の世まで残していく建築、世紀単位として語られる建築というところから、鉄筋コンクリート造か鉄骨鉄筋コンクリート造ときめられておりますが、鉄筋コンクリート造は、初期の四棟のみで、それ以後は全て鉄骨鉄筋コンクリート造のラーメン構造としております。またコンクリート壁は、外壁、階段、E L V廻りのみで、将来の用途変更を考えコンクリート壁を用いておりません。スパンは、当初の木造建築の二間、3.6mを基本としながらも延長解釈し4.0mとし、桁行スパン4.0m、梁間スパン8.0+6.0+8.0mとしました。

また設備との取合いである梁貫通においても当初より、8.0mスパンにおいては6-300mm ϕ 、6.0mスパンでは4-300mm ϕ 、4.0mスパンでは3-200mm ϕ を、標準梁貫通と致しております。

以上述べましたように、天理教における「おやさとやかた」は、耐久性を主眼に、素朴な建物をつくることに心がけ、屋根には周囲との調和、風土に適したながらもそのする材料として本瓦を用い、一方外壁は、コスト上の全体的バランスから素朴な仕上げに、しかし軒、バルコニーを大きく跳ね出し、外壁が直接雨にさらされることを避けるなど木造建築自身のもっている良さを、ごく自然発生的に取り入れたものと考えております。

最後に、構造家に一言ということですが私自身、内田博士の影響と教科書通り仕事を進めてきただけなので偉そうに言えませんが、建物は仕上げ、軀体、設備各々ではなく、全体で耐えうるものであることを頭に、建設後の用途変更、維持管理を考えた設計をしていただくことを望みます。

十字柱などの溶接自動化にミグトレイン

 神戸製鋼

溶接棒事業部
装置ロボット室 大阪販売グループ ☎06(206)6406

アーバンライフ㈱

今中利和

「建築主からみた建築構造雑感」というタイトルでの執筆依頼がありました。当社業務繁忙状況と原稿〆切日の関係から私が執筆?する事となりました。もとより私は偶々建築主となる事が多い会社に勤務しているというだけのことですが、およそ建築構造や技術の事は皆目わからぬズブの素人ですので、依頼者のご希望とはほど遠い全くの的はずれな事が多いのではないかと心配いたしております。的はずれの点は何卒ご容赦下さい。

さて最近建築物の関係で気になつてゐる事と云えど去る10月13日朝、和泉ショッピングセンターの外壁が崩れ落ち市道に駐車中の乗用車を大破したと云う新聞記事を見たが、街を歩いていても又ビルの中を歩いていても建築物のコンクリートのヒビ割れを少なからず眼にする事である。和泉ショッピングセンターの例は手抜き工事や管理に不備があったのではないかと思われるが、我々の身近かなマンションの庇がはがれて落下した様な話も聞いた事があり、コンクリートのヒビ割れは気になるところである。

技術的な事は良くわからないが、施工技術等で何とかなるものであれば安心できる施工を願いたいものではある。

もう一つコンクリートのヒビ割れでは、アルカリ骨材禍で国鉄新幹線高架や高速道路の高架にアルカリ骨材反応とみられるヒビ割れが多発している事が新聞のトップ記事になったり、NHKテレビでは高層ビルやマンションにもシリカ混入の砕石やケイ酸ソーダ等の化学反応による被害が出ているとの報道があった。

若し仮りに我々の会社が建築主となつたマンション等にこの様な被害が発生したらどうするか、一抹の不安を覚える。いや施工会社はそれ以上に不安であると思う。早急にこの種の禍が発生しない様施工時から監督指導管理等防止対策が必要であると思う。

話は変わるが、ビルやマンション等の鉄筋コンクリート建築の軀体は或る意味では永久にもつと考えられるが、水道管等の配管設備その他の諸設備の修繕についての配慮は万全であろうか。以前より相当進んで来た様であるが、諸部品の取

替等修繕が容易にそして比較的安価に出来る様な構造になっているか。これには限度がないと思うが、構造上見た目に美しく、しかもすべての配管や部品の取替が容易且つ安価に出来る様に構造技術上のより一層の向上を望むものである。

その他室内の梁を少なくすると、結露の防止、防水・防火・防災についての構造上の研究、果ては建て替え時の配慮迄考慮する等研究を要する事は山積されており、技術確信には終りがなく、不断の研究、研鑽を積み重ねられますよう祈つて止みません。

電鉄系不動産㈱

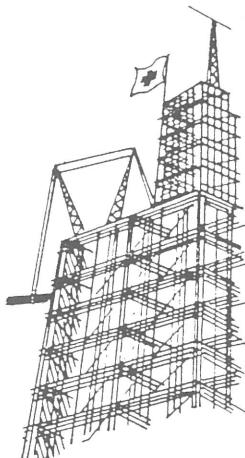
吉村太一

鉄道会社に於ける建設事業は、最近の多角経営化と自治体及び住民の要請による市街地再開発整備気運によって、その業態を大きく変えて来ています。昔は駅舎、駅務室等本来の鉄道施設の建設が主な仕事であったのに、最近では、大型量販店、飲食店、ホテル、劇場、駅周辺整備再開発、大型住宅団地の造成等、非常に守備範囲が拡大して来ております。

このような状況の中で、施設建設技術者は、豊富な経験と広範囲な知識を要求されております。私達鉄道事業に従事している者は、乗客の安全輸送を第一に考えながら、これ等の施設建設を推進していかなければならぬ立場にあります。駅周辺の整備計画を例にとれば施設設計の初期段階に於ける技術者の判断は、その後の市街地の発展や周辺住民の利害に大きな影響を及ぼします。又、その構造方式の選択は工事の方法を決定づけ、列車乗客の利便や、列車運行の安全確保にはかり知れない影響をもたらす事になります。こうした中で日頃私達は建築設計技術者（構造設計技術者も含めて）に対しては、無理を承知で難しい要求をしてきております。

建築構造の分野は、私達素人にとって最も苦手な分野の一つであります。工事途中では柱梁や基礎、杭等は目に見えていますが、完成してしまうと大部分が見えなくなってしまって、施設の質の良否と全く関係のない（本当は大いに関係ある）ものになってしまいます。本来、施設の性能はその施設の機能が充足され

ているかどうかで判断されるものです。土木構造物では確かにそうなのですが建築構造物ではむしろ、内装や外装などの仕上げの良否にその施設の価値が見出され、本来の強度の高低は余り問題にされていないように思います。ところが一方、この分野は建築コストに最も大きなはね返りを持ち、しかもその施工方法を決定づける重要な分野であるとの認識を持っており、各建築技術分野の中では最も創意工夫の余地がある領域であると感じております。先にも述べましたように、それは余りに専門的な部分が多く、どうしても担当技術者に任せきってしまう事が多く、「聖域」になります。したがって、私達発注者側としては構造担当技術者が、その施設の機能と私達の要求を十分理解しながら、自分の担当分野だけでなく、計画、設備、保全等の技術者達の担当分野にまで積極的に目を向けて、それらの意図を理解しながら最終的には私達のニーズ（目的）に合った方法で、より完全な設計を提供して欲しいのであります。ともすれば、不合理な「虫」はこれら各分野の境目に潜んでいる事が多いからです。



●支部の動き

- ・9/20総務委員会—予算執行の中間報告、表彰制度他
- ・9/27広報委員会
- ・技術委員会の活動
- 鉄骨分科会—7/11電炉既成フラットバー見学会
- R C分科会—5/27, 7/27, 9/4, 10/23
(R C造講習会企画)
- P C分科会—5/18
- 基礎分科会—4/27, 6/1, 7/2 (地震力に対する建築物の基礎の設計指針案の説明および勉強会), 9/3, 10/3
- コンピュータ分科会—7/24 (パソコンの有効利用例に関する座談会), 9/25
- 耐震設計分科会—8/8 (姫路地震被害報告会 山田 稔神大教授)
- ・定例研究会—9/14大阪市庁舎第2期工事現場見学会

●東京の動き

10/30科学技術館サイエンスホールにて入門R C構造講習会が開催されました。テキストは構造懇親会員の執筆によるもので実例を中心とした実務設計の手引きとなるよう書かれています。当支部においても講習会を実施する予定です。

●構造家懇談会への入会を勧めて下さい
当懇談会では今会員増強を行っています。会員の皆様の周囲で入会希望の会員、賛助会員をご紹介下さい。入会希望あるいはお問い合わせは支部事務局(川崎建築構造研究所 TEL06-231-3112)までお気軽にご連絡下さい。



●事務局よりのお知らせ

- 講習会を下記の要領で開催します。
日時 昭和59年11月30日(金)9:45~16:30
場所 建設交流館8F大ホール
講演・行政官からみたR C構造設計
尼崎市役所 松岡広之氏

OA化の波

脇山広三

各方面のOA化には目を見はるものがある。その行方、人間に関する影響を十分把握出来ないまま事はどんどん進んで行く。人間は賢いはずだが予知能力は、なまざや猿より劣るのかも知れない。誰もが変化のきざしを遅ればせながら感じているが、いったいどうなるのか正確にはわからない。

OA化の目的? いろいろの職場で、「人が何人減らせる。」これはいったい何なのか、人は何のために働き、企業は何のために利益を上げねばならないのか。

OA化の結果? より多くの情報を処理出来る、競争に十分役立つが、人間の幸せといかほどのかかわりを持たせることが出来るのか。

しかし、OA化は進む。この時少なくとも自分達が穴に落ちこむことのないよう知恵を働かす必要があるだろう。

さて、最近の建築設計に関する働きとして、マイクロコンピュータによるCADがあり、CADシステムを個人で持つことも可能となりつつある。現在では、製図用具とどちらが便利かと云う段階ではあるが、数年後には、イメージを立体的データにするような方法が出来るようと思われ、人はイメージだけを与えれば良いようになるのではないかと期待している。

また、高密度通信をともなったOA化は、明らかに勤務形態を変えることを促し、設計・計算業務を事務室に集中せず、いわゆる在宅勤務などを可能にし、ローコスト知力を駆りおこすことに成るかも知れない。いずれにしてもより多くの人が、その恩恵をうけて、自由な時間・有意義な時間が持てるようになることを願わざるにはいられない。

一自身は、もう少し世の中がゆっくり歩んでほしいと思いつつ

(大阪大学 工学部助教授)

・構造設計を考える

- 支部長 久徳敏治氏
- ・構造計算実例 近大助教授 須賀好富氏
- 安井建築設計 林 保氏
- 大林組 永田完治氏

“用美相即”

辻野純徳

柳宗悦は、日常使用される名もない工人のつくる安価な雑貨の中に用(機能)に忠実で健康な美しさを備えるものを見い出し、“民藝”と名付けた。そして工芸のあるべき姿として“用美相即”をあげてきた。茶の世界の大名物中の大名物に大徳寺孤篷庵の所持する“喜左衛門井戸茶碗”がある。朝鮮高麗の飯茶碗が、わが国では茶器となり、大阪の町人竹田喜左衛門から転々、後に京の数寄者の所有となつたが、馬子にまで落ちぶれても離さず、ついに腫物を煩い死んだという。後に松平不昧公の寵愛するところとなつたが、不昧公もその嫡子も腫物を煩い、夫人から孤篷庵に寄贈されたという。外形の、のんびりしたのが縁まわりでやや内に向い、内形は凡々と広い。すなわち縁は薄く高台に向って厚い。茶の湯の冷め難い理に叶った構造があった。

用と自らもつべき構造に忠実であった雑器に美しいもの多かったところは、民芸品の語るところであったが、今は民芸の言葉がひとり歩きして“民芸品あり〼”との看板のあるところには民芸品は存在しない時代となつた。

“用美相即”は伝統的民家の建築に伝えられてきたが、近年では機能主義や有機的建築として見直されてきた。マイセールの橋や、ネルヴィの格子梁、オットーのテント膜構造などは、構造すなわち美をもつ代表的存在で、多くの建築家もめざすところであったが、どうもわが国では見惚れるものが少ない。むしろリミットデザインとも思える伝統的茶室の細い柱や梁、切り揃えるより木そのままを使った健康な農家の柱、梁に構造的魅力を感じ、これを現在の構造力学にのせると、安全率というせい肉と経済性という規格寸法によるめられて醜くなってしまうのが結末であるようだ。

参加費 会員10,000円 会員外12,000円

■定例研究会を下記の要領で開催します。

- 日時 昭和60年2月15日(金)
研究会16:00~18:30 懇親会18:30~
場所 建設交流館
テーマ 杣の支持力について

地震力に対する基礎の設計指針について

技術委員会 基礎分科会

1. はじめに

昭和57年3月、建設省建築技術審査委員会より、「地震力に対する基礎の設計指針（案）」が公表され、関係諸団体からの意見が求められた。構造家懇談会からも、45項目にわたる意見書を提出した事は記憶に新しい所である。それ以後、各界の意見を参考に、2年余の検討を経て、昭和59年9月には、建築省の通達が各行政庁に公表され、10月には日本建築センターの関西地区講習会が実施され、いよいよ実務に、その影響が表れる段階となつた。

技術委員会基礎分科会に於いては、昭和58年4月、その発足と同時に本指針案の検討に入り、約10回の分科会にて検討を重ねて来た。その報告が、昭和59年7月に実施した本指針（案）に関する説明会であり、会員約71名の参加を得、その関心の高さが証明された。

本レポートは、いよいよ実施段階に入った指針について、基礎分科会での検討をベースに、その要旨と問題点を、報告するものである。

2. 指針の主な内容と問題点

2-1 目的および特徴

昭和53年、宮城県沖地震における杭の被害が、基礎の耐震設計に注目する直接のきっかけとなった。さらに昭和56年に施行された新耐震設計法との整合性から、基礎構造の扱いについての問題が表面化した。この様な背景のもとに、本指針は昭和54年前記技術審査委員会基礎検討小委員会により検討がはじまり、昭和59年9月、住指発324号通達として公表されるに至った。

本指針の特徴は、基礎構造に関する現在の知見を体系的にまとめる事を意図しており、研究的には未解明の部分をも含んでいることがある。そのため当面、設計者に判断をゆだねる推奨基準として運

用される。但し、将来には改良を加えて、法令化に進む可能性が強い事に注意する必要がある。

内容上の特徴としては、①1次設計のみを対象としている。②上部構造の慣性力として設計外力を設定している。③杭基礎の設計に重点がおかれている。④杭材の許容応力度を明確にしている。などが挙げられる。以下、主要な内容について報告する。

2-2 設計用外力

①最下階の設計用せん断力+基礎部分の水平力を、設計用地震力とする。
②基礎スラブの根入れ効果を考え、地下部分の前面受働抵抗、側面摩擦抵抗により、杭設計用せん断力が低減できる。

本指針中で、最も主要な内容であるが、地震時における基礎の挙動が、地盤との動的相互作用である事を考えると、外力が上部の慣性力のみでよいか問題の残る点ではある。また根入れ効果についても、建物の平面形および周辺土質の違いを一律に扱う点について注意が必要である。

2-3 杭基礎の設計

①短期許容引抜き抵抗力の設定。周面摩擦力度が支持力の場合に較べて低い。
②水平力による杭の応力、変形計算は線型地盤反力法による。この場合、杭頭の固定度を考慮できる。
③杭体の検討は、軸力・曲げの合成応力下で行なう。また設計用せん断力は、杭の曲げ降伏荷重に対応する値とする。

①については、実大引抜き試験の例が少ない事から、安全率を大きくした事が提案されている。②では、 k_H の評価式として道路橋示方書に示された推定式が採用されている。また杭頭の固定度を評価する場合は、実験等による確認が必要となっており、原則として固定を推奨している。コンクリート系杭では、設計せん断力を割増しするが、これは2次設計

手法が確立するまでの暫定処置と明記されている。

2-4 杭材の許容応力度

①P C杭の許容応力度が、破壊に対する余裕を1.75倍以上となるよう設定している。
②場所打杭の許容圧縮応力度が従来より大きくなっている。（ $FC/5 \rightarrow FC/4.5$ ）
③鋼管杭の腐食しろが従来の2mmから1mmとなっている。

①における破壊の余裕率1.75倍は $D_s = 0.35$ に相当し、2次設計での安全性を考慮した考え方が採用されているが、大きな引張力を生じる範囲では、上記の余裕率が確保できない事に注意が必要である。また、この様な余裕率を、他の杭に対してはどの程度と考えるか問題となる点である。

2-5 基礎スラブと杭の接合部の設計

①接合法は原則として同一建物では同一の方法とする。
②接合法および基礎スラブの設計法について具体的な手法は、設計者にまかされている。

接合方法とその応力伝達メカニズムは未解明な部分が多く、設計者の判断にまかされている。従来から設計者により大きな相違があらわれる部分であり、今後の研究成果が待たれる分野である。

3. 今後の方向

冒頭で述べたように、未解明の部分を含みながらの公表であり、設計者の判断に依存する部分が多い指針である。このことは、設計者の指針適用にあたっての、積極的姿勢および研究開発が求められている事を示しており、設計者の活動結果が十分取り入れられた形で法令化につながる様、努力を積み重ねて行きたいものである。



●会員の紹介

青柳 司



(勤)株日建設計

(趣)競馬

好きなものは音楽、リズムはワインナワルツ・タンゴ・ロック、好きな作曲家はモーツアルト・ヨハン・シュトラウス・オッヘンバッハ、ゆっくり音楽を聴ける日を楽しみに日夜仕事に振りまわされています。気分転換に競馬は最適、しばらくは続けるつもり。

角 彰



(勤)株竹中工務店

(趣)スポーツ、絵画

山の近くで住んでいたり、山歩きが好きである。季節の移りかわりを感じるからである。四季の変化の様に、仕事にも節目を持ちたい。計画、実行、収穫、反省の様に。

構造設計に従事して10年。新たな、気持で建築と対峙したい。

岡本達雄



(勤)株竹中工務店

(趣)ゴルフ、映画鑑賞

“建築は芸術だ”という言葉があるが、とりたてて造型的才能に恵まれない者が建築の創造に携わる事ができる構造設計という職能を与えられた自然界に感謝しつつ設計に従事する日々、時代の要求である軽薄短小化への努力をいかに“芸術”へと高めるかが現在の目標かとも思う。

斎藤幸雄



(勤)株日建設計大阪本社

(趣)ゴルフ、音楽

日本の古建築は骨組がそのまま造型美を形成しています。奈良に住んでおりますので時々見に出かけますが、見るたびに新しい感動を覚えます。現代建築も構造面の美しさをもっと前面に出せればと常々思っています。

川村 佳則



(勤)株川村建築構造

(趣)ゴルフ、囲碁、酒

この道に携わって30年。構造事務所の経営は日増しに大変ですが、人々に快適な都市環境を与えたいと建築家の意志を理解尊重し、美的な感覚をも養い、美しい「骨組のデザイン」を追究しています。

豊かな空間の創造に“この道”をどこまでも、どこまでも……。

板垣勝善

(勤)株大林組

(趣)釣り、読書

昨今QCがどこの会社でも流行しておりますが構造設計内容のQCはいろいろな制約からなかなか意図通りに進まないのが実情の様です。“構造屋”も“意匠屋”の傘の下から抜け出して、早く一人歩きするようになりたいと思いながらもう20年経ちました。

■ 第2回構造家懇談会関西支部

ゴルフ親睦会 報告

雲一つない秋晴れに恵まれて、一人の欠席者もなく、総数24名の参加を得て表記コンペが11月7日に開かれました。前回と同じコースの「伏尾ゴルフクラブ」で一同誠に愉快にプレーが出来ました。

当日の成績は右表の通りで、優勝は2アンダーの好成績を出された川村氏に決まり、2位から4位迄は同ネットという接戦でありました。春のコンペにくらべて参加者の平均ストロークが5.5少ない102.25でありました。会員の紹介欄に趣味がゴルフと書かれている方が多いですが、この成績表をみて、我こそは優勝せんと思われる方の多数の参加を望みます。次回は60年5月に開催が予定されています。

(真塚達夫)

		南コース	西コース	GROSS	H.D	N.E.T	RANK
1	川村 佳則 (川村建築構造)	45	51	96	26	70	優勝
2	林 保 (安井建築設計)	48	54	102	30	72	2位
3	安田 光世 (安田建築事務所)	46	48	94	22	72	3〃
4	山口 和成 (松尾橋梁)	46	44	90	18	72	4〃
5	須賀 好富 (キンキ構造)	44	43	87	14	73	5〃
6	真塚 達夫 (東畑建築)	48	41	89	15	74	
7	馬瀬 芳知 (馬瀬構造)	48	39	87	12	75	
8	梅木 信正 (春本鉄工)	45	37	82	7	75	
9	谷尾 俊弘 (イオリ建築)	47	49	96	21	75	
10	西座 広昌 (豊南製作所)	51	47	98	22	76	10位
11	土井 和昭 (川崎重工)	44	51	95	18	77	
12	吉田 博史 (ユニオンシステム)	48	57	105	28	77	
13	長田 正雄 (長田建築)	51	49	100	22	78	
14	吉村 欽吾 (横河橋梁)	64	56	120	30	80	
15	日下 英雄 (日下建築)	53	48	101	20	81	15位
16	川村 紗一 (久保田鉄工)	62	55	117	36	81	
17	丸岡 義臣 (竹中工務店)	59	59	118	36	82	
18	伊藤 孝 (小河建築)	61	45	106	24	82	
19	奥村 寿三雄 (奥村建築)	51	55	106	24	82	
20	広浜 武雄 (新日鉄)	49	48	97	14	83	
21	小島 明 (片山鉄工)	66	62	128	38	90	
22	山森 功雄 (電気化学)	48	58	106	16	90	
23	黒沢 志郎 (黒沢建設)	64	43	107	15	92	B.B
24	松浦 英一 (日本コンクリート)	61	67	128	30	98	

ニヤビン 山森、山森、谷尾、林

次回ハディ

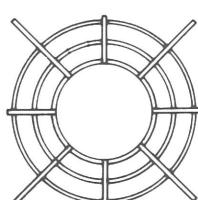
ドラゴン 安田、奥村

川村(佳) 20、林 27、安田 21

梁開口補強筋

“ウェブレン”

RC～SRCでも確実に補強と施工可能



関西ティエム販売株式会社

〒534 大阪市都島区東野田3丁目13-24-609
TEL(06) 357-5100(代)

発行 構造家懇談会関西支部事務局
川崎建築構造研究所 TEL 231-3112